

キャラクター名  
星見忠夫

プレイヤー名

シンドローム	キュマイラ	ワークス	UGNエージェントD	カヴァー	高校生
	キュマイラ				
オプション		年齢	17	性別	男
覚醒	感染	衝動	飢餓	初期侵食率	32%
出自	戦災孤児	経験	伝説	邂逅	師匠

	基本値	ワークス	ボーナス	成長	他修正	能力値	HP	33
肉体	6	0	0			6	行動値	3
感覚	0	0	1			1	(非装備時)	3
精神	0	0	1			1	戦闘移動	8
社会	2	1	0			3	全力移動	16

肉体			感覚			精神			社会		
技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正
白兵			射撃			RC	1		交渉	1	
回避			知覚	1		意志			調達	1	
運転:			芸術:			知識:			情報: UGN	1	
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		

武器・コンボ	能力	命中値	G値	攻撃力	射程	メモ
西洋剣	白兵	6r-1	4	4		

防具	価格	装甲	回避	行動	メモ
龍燐+衝撃相殺		50			ダメ-25軽減
龍燐+衝撃相殺 100↑		60			ダメ-25軽減

所持品	
ウェポンケース	
思い出の品	

合計装甲: 110    合計回避: 0

ロイス			
対象	感情(pos)	感情(neg)	タイムス消費
Dロイス 守護者P		N	
師匠	P 隊長	N 不信感	
蟋蟀蜘蛛 蜈蚣	P 尊敬	N 脅威	
	P	N	
	P	N	
	P	N	
	P	N	

最大財産P: 8    残り財産P:

スキル名	SL	コスト	タイミング	射程	対象	判定	制限	メモ
ワーディング	★	-	オート	視界	シーン	自動	-	
効果:	非オーヴァードのエキストラ化							
リザレクト	0	1d10	気絶時	-	自身	自動	↓100	
効果:	コスト分のHPで復活							
完全獣化	1	6	マイナー	至近	自身	自動	-	
効果:	肉体の能力値ダイスをLv+2個する							
軍神の守り	1	2	オート	至近	自身	自動	-	
効果:	ダメロール時カバーリング。行動済みにならない							
龍鱗	5	3	リアクション	至近	自身	自動	-	
効果:	エフェクト組み合わせ不可装甲LV*10							
衝撃相殺	5	-	常時	至近	自身	自動	リミット	
効果:	龍燐使用メイン受けるダメ-Lv*5							
知性ある獣	1	2	マイナー	至近	自身	自動	-	
効果:	完全獣化中にアイテム使用可能							
庇護の獣	1	4	オート	至近	自身	自動	100↑	
効果:	リアクションやガードを行えない攻撃でも行える							
イージスの盾	4	3	オート	至近	自身	自動	-	
効果:	ガード宣言時ガード値+LvD							
	★							
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								

物心ついた頃には既に戦災孤児だった。  
 特に何かができたわけではなく、荷物運びや戦場跡での味方の埋葬などをただただ行っていた。  
 そのまま兵士となり、様々な戦場へと赴いた。ニューヘヴン島やクロドヴァの内乱にも忠夫は存在していた。  
 そのクロドヴァで師とも言える隊長と出会い、今の戦い方を教わった。  
 そして日々を過ごしていく中で一つの出来事が起きた。  
 大規模な飢饉に陥っていた年。村の警邏中、一人の村娘から一杯のスープを恵まれる。  
 生まれて初めて受けた自分よりも苦しいはずの相手から差し出されたもの。  
 ただただ涙が溢れ、理由は忠夫には自覚できなかった。  
 苦しい時でも支え合える誰かがいるという、至極当たり前のことを、生まれて初めて感じたのだ。

あくる日、何かお返しができないかと考えているとアレはその村にやってきた。  
 そして運悪く、その日は隊長たちが別任務でいなかった。  
 おとぎ話の存在であろうそれは言った。  
 「真物を我が巣へと持って来るがよい。それが貴様らに許される唯一無二の生存への道だ」  
 真物には娘が選ばれた。  
 それに待ったを掛けたのが忠夫だった。  
 「自分がアレと話してくる」  
 ただの少年兵に一体何ができるといのか。むやみにアレを怒らせるだけでと村の者は反対した。  
 だが忠夫は一人で巣へと赴いた。  
 そんな馬鹿な行為にソレは笑い、称え——咆哮を上げた。  
 「ただの小僧に何ができるか」  
 その小僧はソレに挑み、大怪我を負いながらも見事に帰還を果たした。